

毘伽可汗、命檢校工部尚書鴻臚卿兼御史大夫張茂宣、持節弔祭、冊立之……十一年廻鶻可汗卒、遣使來告喪、十一月冊廻鶻可汗、爲愛登里邏骨沒密施合毗伽保義可汗、命宗正卿兼御史中丞李孝誠、持節弔祭、冊立之」

と記し、冊府元龜繼襲篇にも、前記封冊篇の記事とは別に、俱錄毗伽可汗が

元和「六年卒、七年詔冊其王、爲君登里邏骨德密施合毗伽可汗、十一年卒、詔冊其王、爲愛登里邏骨沒密施合毗伽保義可汗

と記せり、此の如く此等の兩書は俱錄毗伽可汗の死を以て元和六年（八一一年）とするのみならず、此の可汗の死後、軍（君）登里邏骨德密施合毗伽可汗といふもの位を嗣ぎ、其の後初めて保義可汗に及べりとするものにして、前に引ける諸書の記事とは大なる相違を有するものなりとす。

冊府元龜繼襲篇の記事は、其の封冊篇の載する所と矛盾し、然も一方唐會要の記事と好く合致するものあるは、前に見たる阿啜奉誠可汗の死を記せる場合に於るが如し、蓋し大中六年に至る迄の會要の記事は既に唐代に編纂せられたるものなるべきこと、次篇（二二三）に述べたるが如くなれば、繼襲篇は之に依據したるか、若しくは會要と同一の史料を其の儘に採録せるに外ならず、此等の兩書にかく明かに可汗の名を擧げ、又其の封冊使の名までも記せるより考ふれば、兩唐書が或は之を遺脱したるものならんかとも考へらるれど、此の問題を解決すべき有力の資料なる Kara Balgassun の回鶻碑文は、此の部分に於て殘闕し、奉使の任に當れりといふ張茂宣の傳も傳はらざれば、今之を的確に論定すべき方法の存するなし、茲には暫く兩唐書冊府元龜封冊篇通鑑等に従ひて俱錄毗伽可汗の死を元和三年と認め、保義可汗を以て之に繼げるものなりと見るべし。